

明治三年六月六日

開拓長官黒田清隆

太政大臣三條實美殿

三年二月廿

三寺出仕

書記官

衛生青木海吉調

勸業課

記帳課

會計課

乙第中檢書

乙第六

別表造所取扱係入義上申

當使本廳物產司諸別表所取扱人例則

令般別記、通相定候條此段上申候也

明治三年六月九日 開拓長官黒田清隆

太政大臣三條實美殿

札候物産局諸製造所職夫例則御達按
第八號

本支廳

東京出張所

當使物産局諸製造所職夫例則別紙ノ通相定候条此旨
相達候事

明治十二年六月六日

閣拓長官黒田清隆

物産局諸製造所職夫例則

第壹條

職夫ハ篤實壯健ナル者ヲ撰ミ現術ニ使役スヘシ
但其負ハ實地ノ適宜ニ隨フヘシ

第二條

製粉 製酒 製醬 職夫ノ等級及ヒ給料ヲ定ムルモ
製紙 雜詰

之如シ

等級	一等職夫	二等職夫	三等職夫	四等職夫	五等職夫	六等職夫	七等職夫	八等職夫	九等職夫	十等職夫	職夫見習
給料	金五拾貳	金四拾貳	金四拾	金三拾五	金三拾	金二拾七	金廿五	金廿	金拾五	金拾	金拾

但雇入ノ節ハ術業檢査ノ為ノ一日金拾貳ヲ以
五日間使役シテ其用ニ堪エルト見認ル者ハ職
夫見習ヲ命ス尤モ親戚或ハ故舊ノ者ヲ保証人
ト為シ丸ノ書式ニ徴ヒ証書ヲ出サシムヘシ

第三條

一等職夫中業務勉勵技術純熟セシ者ハ特選シテ其給料ヲ増加シ或ハ御用係等ハ登用スルヲアルヘシ

第四條

雇入及ヒ黜陟放免等ノ節ハ物産局ノ命令ヲ以テ之ヲ命シ給料ハ該所定額金ヨリ支給スヘシ

第五條

使役ノ時間ハ日ノ長短ト事業ノ繁閑トニヨリ之ヲ定ムヘシ

第六條

使役ノ細目ハ係官負之ヲ指揮シ其勤惰ヲ監視スベシ

第七條

黜陟及ヒ定負ノ補款等局長之ヲ處分シ増負及ヒ特選

ノ増給等ハ其時々同ヲ徑テ處分スヘシ

第八條

宿直ノモノニハ例規ノ通賄料ヲ給スヘシ

第九條

病氣ノ節ハ其旨届出日数三日ニ至ラハ更ニ醫業ヲ副ハテ其病証ヲ具状シ荏苒六十日間ニ及ラバ放免スヘシ

但六十日間ニ及ラ若ト雖局長ノ見込ヲ以臨機ノ處分ヲ為ス丁アルヘシ且病氣届出ノ日ヨリ給料ヲ止メ手當トシテ一日金拾弍宛給與スヘシ

第十條

一等親ノ病寢或ハ不得止事故アリテ一時帰省ヲ願フ時ハ往復ヲ除ク外日数十日間以内ハ之ヲ許スヘシ尤

周知

周知

第八
牧畜
正相
毎歲
心ヲ

練熟セシ者ハ特選シテ其給
ハ登用スルヲアルヘシ

ハ物産局ノ辞令ヲ以テ之ヲ
リ支給スヘシ

事業ノ繁閑トニヨリ之ヲ定

指揮シ其勤惰ヲ監視スベシ

長之ヲ處分シ増負及ヒ特選

テ處分スヘシ

賄料ヲ給スヘシ

三日ニ至ラハ更ニ醫業ヲ副

六十日間ニ及ラハ放免ス

ト雖局長ノ見込ヲ以臨機ノ

シ且病氣届出ノ日ヨリ給料

日金於弔死給與スヘシ

止事故アリテ一時帰省ヲ願フ

日間以内ハ之ヲ許スヘシ尤

周知

第八條 ハ七重水車器械取扱人例則
牧畜樹藝取扱人例則ニ據テ之通御更
正相成候様致度候

第八條

毎歳一月四日製造始ノ節ハ赤飯料ト
シテ一人ニ付金八匁ヲ給スヘシ

モ帰省中ハ給料ヲ與ヘサルヘシ

第十一條

公事ニヨリ旅行スル者ハ渾テ旅費定則第九章ニ照シ
支給スヘシ

第十二條

事業上死傷スル者ハ明治八年第五拾四號公達ニ依リ
處分スヘシ

第十三條

甲地ニテ雇入ノ者乙地ニ移リタル後官ノ都合ニ據リ
雇ヲ止ルカ或ハ高氣又ハ不得止事故ヲ以テ請願ノ上
雇ヲ免スル時ハ手當トシテ甲地迄ノ旅費全額ヲ支給
スベシ

御請書雜形

用紙証券畧紙

御請書

使 管下何國何郡(區)何町(村)

使 何番地住士族何誰子弟

使 或ハ當時使 管下何國何郡(區)何町(村)何番地寄留

何ノ誰

年号何年何月

右之者儀今般何ノ職夫ニ御雇入相成候付テハ御雇中
ハ御規則遵守セシムルハ勿論官ノ御都合ヲ以テ御雇ヲ
被免候ハ格別滿三ヶ年間ハ自己ノ都合ヲ以テ御免相
願候様ノ義ハ決テ不為仕本人身上ニ関シ候義ハ私悉

皆引受可申依テ御請申上候也

候 管下何國何郡(區)何村何着地

本籍或
寄留

明治何年何月何日

保証人 何ノ誰 印

戸長 何ノ誰 印

開拓使

物産局

御中

長官

三年前書

書記官

六等屬肥後縣正調

乙第六拾七号

沿海府縣ニ達シ義上申

當使管下區館沖新町松尾与務有船、石川縣
能登國羽喰郡大念寺村平野治平外、右表組明治十
年四月三十日渡島國檜山郡江差、向今出帆ノ次、申今
行方不柰知青届出候ニ付沿海府縣、別紙ノ通柵